

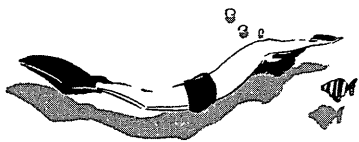
大き手

宮坂静生

小諸四句

ここに青春火山灰道の蜥蜴よ
露草の金の薬振る与良古墳
栗谷川医院丈高をみなめし
宵待や火の山を溶岩ころがりし
大き手といはれ残暑を驚擱み
藪漕ぎのくらしや虫の音の埧堀

山崎和之に



擦り切るゝ寸前暁の虫の音は
青松虫穢土よりの使者青衣着て
青毬栗癌細胞にぶつけたし
遠くまで咲きひしひしと蕎麦の花
菱群に蟬がとび込み鳴き出せる
山稜に雲の仮寝も厄日過ぎ

いくたりの友を思う